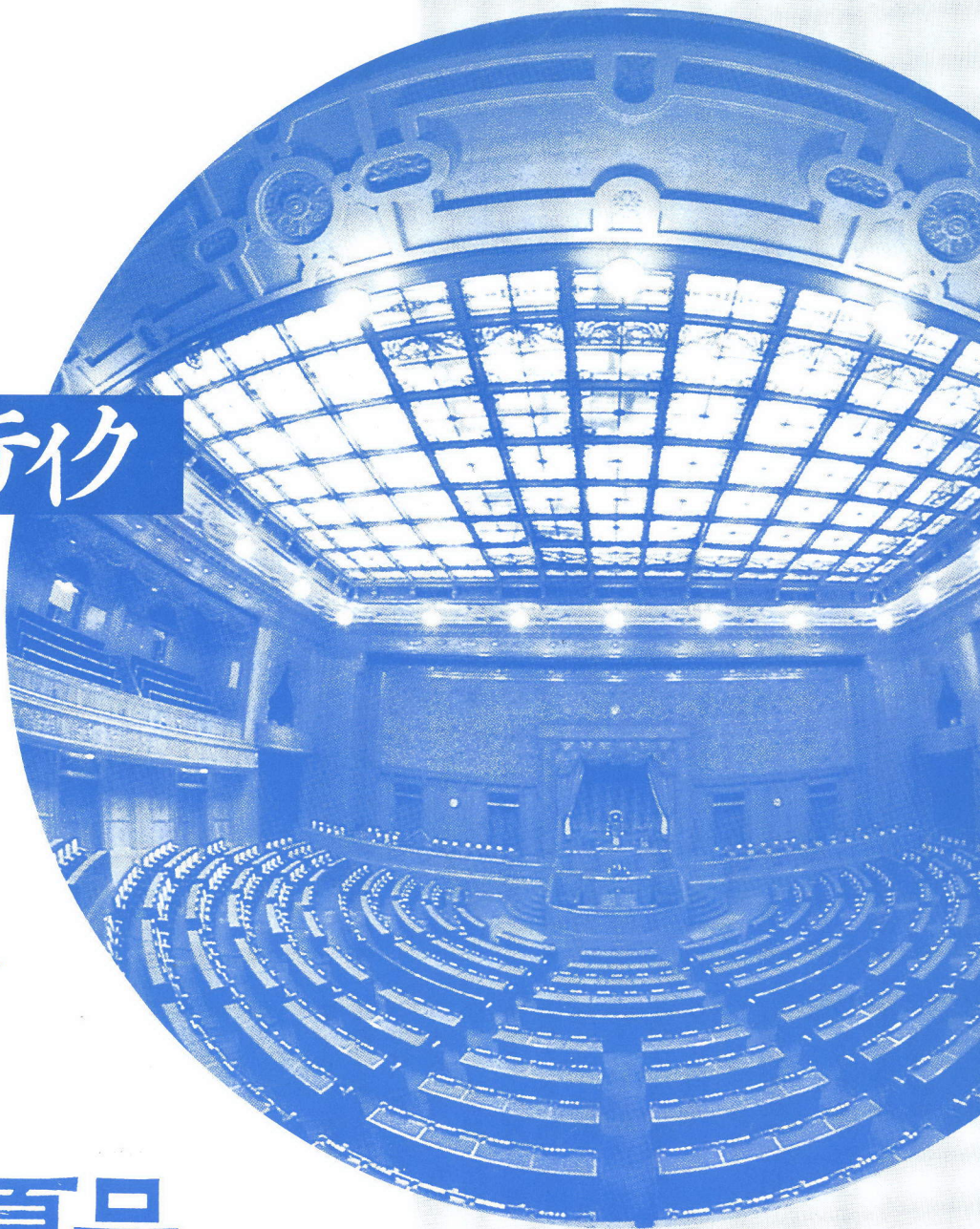


女だから、政治!

Femme

ファム ポリテイク

Politique



1994年夏号

CONTENTS

防衛費という名のムダ遣い.....	2
政治家を利用しよう!.....	5
政党——その個性と組織①/共産党.....	6
朗報・保育園はみんなのものだ.....	9
女性議員のページ/野田聖子・小野きみ子.....	10
インタビュー・近藤隆行「国会議員の金あつめ」②.....	12
ここが言いたい・反対!「臓器狩り」をめざす移植法.....	17



防衛費と いろいろ名の ムダ遣い

日本が、いつのまにか世界第二位の軍事費支出を誇る国家になっていたとは、知らなかった！ アメリカの傘の下で、軍備に金を使わず繁栄してきた国だと思いきや、いなかっただか。何年前か前、防衛予算がGNPの1%を超えると、かぞえていたが、百分の1程度ならどうってことないとか、タカをくくっていたのではな

いか。
いづれにせよ、自国の軍備の実情を知らずに生きてきたことは間違いない。憲法を尊重し平和を愛好すると称するタイプは、あってはならない

はずの日本の軍隊を正視した
がらないところがある。私も
その一人だった。
今からでも遅くはないから、
軍事費問題を基礎からみてい
くことにしよう。

見せかけだけの軍縮路線

一九九四年度の防衛費は、
前年よりたった〇・九%増え
ただけ。実に三十四年ぶりの
低い伸び率で、軍縮の時代に
即応した予算と防衛庁は宣伝
している。

それに対し、いやこんな
ちっとも軍縮になっていませ

民間活力の導入、などという名のもと、
福祉予算が削られていく。その一方でこ
れほどの予算の大盤ぶるまいが行われて
いる現実。私たちはいつまで、こんなこ
とに目をつぶっているのか。

んよ、と指摘するのは、元防
衛庁防衛研修所第一研究室長
の前田寿夫さん。

理由の一つは、八〇年代に
防衛費が突出しつづけた、そ
の数字を基礎にしていること。

一九八二年と八八年の予算を
比較してみると、一般歳出は
六年かけてたった一・一%の
伸び。なのに、防衛費は四三・
一%も伸びている。文教科学

振興費や公共事業関係費は、
逆に六年前よりマイナスに落
ちこんでいる。全体に国の予
算を引きしめ削減している中
で、防衛費だけは大盤振舞い
が続いたことがわかる。八九

年から九二年度にかけても防
衛費は前年より数%ずつ伸び
つづけ、九三年度になって二
%未満の伸び、九四年度で伸
びが一%を割ったという展開
である。際限なく肥大させて
きた予算の伸び率が一度鈍っ
ただけで軍縮などとはいえな
いというわけだ。ちなみに、
九四年度の防衛費は四兆六八
三五億円である。

防衛計画大綱はザル法

八〇年代の防衛費突出の背
景に何があったのだろうか。三

学園紛争が盛んなころ、三

次防四次防という言葉をよく
耳にしたはず。自衛隊は、一
九五八年度から七六年度まで
に四次にわたる増強を行なっ
た。石油ショックを経て防衛
予算の増加に反対する世論が
高まり、七六年に政府は「防
衛計画の大綱」を決定する。
これは、自衛隊の兵力の上限
を数字で示し、軍備に枠をは
めるものだと言明された。

しかし、これが抜け穴だら
けのとんでもない代物。陸上
自衛隊については、部隊編成
や師団数を示しただけで、戦
車の数が書いてない。当時七
六〇両だった戦車は九〇年

でに二二〇〇両にまで増えている。

戦争シーンはテレビや映画でしか見たことのない人でも、陸の闘いに戦車が重要なことくらいはわかる。運動会の騎馬戦じゃあるまいし、人間の数だけ書いてどうして防衛力の上限を示せるというのだから？

海上自衛隊のほうでは、艦艇の数は示されたが、トン数が書かれていない。艦艇はほとんど大型化して、当時計二〇万トンだったのが、三五万トンにもなっている。万事この調子で、軍拡路線に何ら歯止めはかからなかった。

大綱の出たのと同じ七六年、GNPの1%以内という枠が決められた。だがこれは、国民総生産が上がれば、防衛費も公然と増やせるシステムであった。

兵器はローンで

今度は防衛費の内訳を見てみよう。自衛隊員の給料と食費である。「人件・糧食費」は四割を占めている。それ以外を「物件費」といい、これは戦車・銃砲・戦闘機などの「正面」と、燃料・通信・施設などの「後方」に分かれる。防衛庁は「正面を大幅に抑制した」というが、これも実

はみせかけ。ほとんどの兵器は数年間の分割払いで買うので、発注したときの頭金しかその年の予算には計上されていない。「後年度負担」と呼ばれる負債が増えると、今後の防衛費が肥大せざるを得ないのに、盛んに兵器の新規発注が行なわれているのが現実。すでに、たまっていくツケは三兆円弱にも達している。

東西対立は今も

続いている？

ところで、自衛隊が長く仮想敵国としてきたソ連は、すでに解体してしまった。前田さんによれば、旧ソ連軍はウクライナに潜水艦工場を持っていたが、ここが独立国になってロシア勢力を排除、経済の大混乱もあって、いまやロシアの軍隊は補給もできず新しい装備もできず、かつてのおもかげはない。

日本では一九八六年から九〇年の中期防衛力整備計画を経て、今は九一年から九五年度の中期防衛力整備計画（新中期防）の時期にある。九一年末のソ連崩壊により、自民党内にも防衛費削減の声が強まった。

九二年の暮れに新中期防の見直しが行なわれて、五年分二二兆七五〇〇億円の予算か

ら五八〇〇億円がカットされた。国際情勢に合わせて本格的な防衛費削減を求める人々には、申し訳程度と感ぜられる修正であった。

イギリスやドイツなどヨーロッパ諸国は、東西対立の解消に伴い、年々三%四%と軍費を削減している。その中で「増え方が少ない」ことをアピールするような対応しかしていない日本が、アメリカに次ぐ軍事費大國にのしあがってしまった。

どうして、こんなに時代に

逆行した軍拡路線を取りつづけているのか。

今防衛庁がしがみついているのは、北朝鮮脅威論である。ヨーロッパとアジアは違う、アジアには依然として東西の緊張が存在すると主張する。だがもし北朝鮮が、韓国や韓国にいる米軍との対立により核兵器やミサイルの開発をしていったとしても、それは本来日本には関係のないこと。

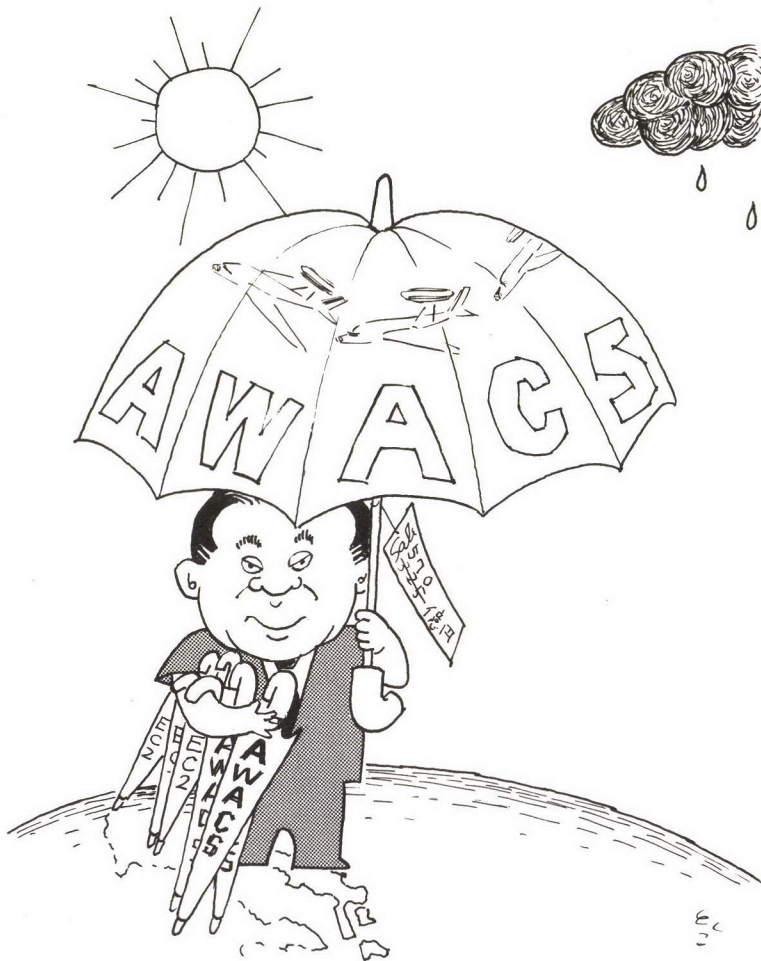
日本はすでに、米軍が北朝鮮とコトを構える際、日本の基地から出撃する了解は与え

である。検査の受入れ拒否問題で国連の制裁決議が出れば、経済制裁を加え、在日朝鮮人からの送金も禁止するといふ。

前田さんは、日本がアメリカの後押しをして、自らの手で北朝鮮との緊張を高めている矛盾を指摘している。

アメリカの圧力

日本の防衛費問題は、長く追従してきたアメリカの影響抜きに語れない。アメリカの



要求に応じて日本が九〇年代から導入を始めたAWACS（早期警戒管制機）は、極めつけの高価な兵器。なぜこれを買う羽目になったのか、前田さんが語るそのいきさつは、ドラマ以上に面白い。

一九七六年に、ソ連空軍のベレンコ中尉がミグ25戦闘機で日本に亡命してきたとき、自衛隊のレーダーはこの戦闘機を捉えることができなかった。防衛庁はこれにショックを受け、敵機の侵入を感知する航空機の導入を決定。

米軍が使用していた二つの機種を検討し、値段が三分の一以下ですむE2Cを導入したのが七九年。

ところが八五年の日米防衛首脳会談で、アメリカは日本が導入しなかった高価なほうの機種も買えと強く要求してくる。当時健在だったソ連軍のバックファイヤー爆撃機に対抗するためには不可欠だというアメリカ側の言い分であった。

ひとつの国が二つの機種を合わせ持つ例は他にないというが、防衛庁は九一年からの新中期防でのAWACSの調達を決定。すでに米ソ間の冷戦終結宣言も行なわれ、ソ連の脅威は薄れていたにもかかわらず、日本は超高価な武器でソ連に対抗しようというお

かしな道に踏み出したのであった。

ところが、AWACSの製造元ボーイング社は、もうこんな兵器を注文する国などないと見て生産ラインを閉鎖していた。

いくらアメリカに買えって言われても、作ってないものは買えないよ、と防衛庁が購入を見送ろうとすると、それは許さないと出てきたのが、アメリカの議会筋。

生産を再開する費用も日本が負担して、当初一機三二五億円のところが五七〇億円で四機も買うという結論になった。大騒ぎしたPKOの九三年度予算は、派遣隊員の特別手当や現地活動費を含めて三〇億円程度。国民が知らない間に、新兵器にどれだけ莫大な金が使われているかがわかる。

常識で考えて、こんなに無駄な買物はない。ソ連が解体し、もう使い道がないので製造元が生産をやめた兵器を、生産再開の費用まで払わされ、予定の七五パーセント増しの値段で買わされる。貿易の黒字減らしと、アメリカ軍事産業の救済以外に何の意味もない無駄遣いが公然と行なわれている。

前田さんは、ペナルティを払ってでも新兵器購入の諸契約を解除したほうが日本の利益になる、と力説している。

思いやり予算とは

六〇年安保か七〇年安保にぶつかった人は、安保条約の下での日米地位協定というのを耳にしたことがあるはず。日本は無償で基地を提供するが、基地の整備費や建設費、そこで働く日本人従業員の人件費などはアメリカが負担すると定められている。

ところが、アメリカの圧力により、アメリカが負担すると約束した分まで日本が支払うようになってきた。七八年度に、円高に伴い日本人従業員の福利厚生費を六二億円ほど負担したのが始まり。

当時の金丸信防衛庁長官が「思いやりの精神で」と説明したので「思いやり予算」という名で呼ばれることになった。

ところがその後アメリカの要求はエスカレートする一方。日本人従業員の基本給、そして米軍用住宅。逗子の池子の森をつぶして建てる米軍用住宅も、当然日本の税金でつくられる。

「思いやり予算」は七八年から九四年までの一六年間に四〇倍、二五〇億円にまでふくれあがり、山形県予算より多いというありさま。

もちろん思いやりという言葉を使っているのは日本だけで、アメリカにとっては軍事費の肩がわりというだけのこと。アメリカもまた在外兵力を大幅削減させる方向なのに、日本だけが米軍の施設をどんどん作ってあげるといふ不思議な構図ができあがっている。

「思いやり予算」の対象には、戦闘に直結するものもある。三沢基地の戦闘機用対爆シェルターは、三沢が空襲を受けるときに備えて設置されたもの。日本を戦場にしやすいとする施設まで日本の税金で作ってあげているのだ。

そこに基地の地代まで含めると、米軍駐留経費は九四年度で約六〇〇億円弱。日本には現在四万六〇〇〇人の米兵がいるから、一人あたり年間一三〇〇万円近く日本が払っている計算である。

戦後、日本の革新勢力は、戦車や戦闘機を買うから国民の暮らしが苦しいと言う論法を使ってきた。感情的で単純な論理で、アメリカ帝国主義云々と自党のイデオロギーに引張っていく強引さには、反発を招く要素があったと思う。

しかし冷戦終結・ソ連解体

後の世界にあってひとり、根拠のない莫大な軍事費を支出し続けている日本の姿は、いかにも異常だと分かる。これを削減して国民の生活を豊かにする方向に使わない限り、私たちの税金は際限なくドブに捨てられていく。

大蔵省寄りの論客が、テレビでこう語っていた。「消費税率を上げるのが嫌だとおっしゃる方は、ご自分が六五歳になったとき、一円も金はいらんという覚悟をしていただきませんとね！」

国民が国家予算の内容を知り、税金の不合理な使われ方にノーと言う力を持つてば、こんな言葉に動揺したりはしないだろう。

まず、すでに消え去った国に対抗する戦力を増強して、軍事費大国に成り上がった事実を見つめることから始めてみるべきかも知れない。

国会議員を上手に使って、自分の願いを実現することができる。有権者は投票して知らん顔でなく、積極的に国会議員に頼みにいくべきだ。こう主張するのは、弁護士で前衆議院議員（社会党）の鈴木きく子さん。

ただし、ドラ息子就職依頼なんてのは駄目。社会的な広がりのある個別の問題を議員に訴え、国会で取り上げてもらう方法がけっこう効果的なのだという。

鈴木さんの議員時代に、それを見事にやっつけたグループがあった。国立大学の研究所に長く勤める女性たちが、女子職員は昇給させてもらえず「最低ランクの一番上」に大勢ひしめいている問題を何とかしてほしいと訴えに来た。鈴木さんはこれを文教委員会分科会で質問、管轄の文部省から「善処します」の答えを引き出した。

するとその職場にたちまち異変が起きた。鈴木質問は四月であったが、直後の六月にまず古参の女子職員幾人かが昇格、翌年四月には全員が昇格してしまったのだ！

訴えた女性たちは別に社会党支持者ではなかったそうだが、鈴木さんはそんなことを気にしない。議員としてのこの行動は、他の大学研究所の

政治家を 利用しよう！



鈴木きく子さん

人事にも影響し、職場での男女平等に貢献したはず。こんなふうに「議員と市民の共同作業でいいことができるんですよ」という。

市民グループが、国会議員を利用するハウツーを鈴木さんに聞いてみた。

まず議員に何をしてほしいかを考える。そして、頼みにいく議員を選ぶ。選挙を応援した議員が当選していれば一

番いいが、そうでない場合は、自分の選挙区の中から理解してくれそうな人を選ぶこと。

やはり女性議員には女性グループの意見が届きやすい面がある。議員の経歴や専門分野、所属委員会などは市販の国会便覧で調べることができる。

またかかえている問題の性質により、野党向き、与党向きと言った差があるから、そこも考慮して。先の昇格差別

問題のような告発型の質問は、まさに野党向きといえる。

そして議員に会いに行くには、議員会館に電話してその議員の部屋につないでもらい、秘書を通じてアポイントメントを取る。電話で用件を言う際、自分が選挙区の者であり、仲間が何人もいると伝えるところ、自分もいる場合が多い。

議員というものは、どうしても自分の票につながる有権者

を無視できないからだ。議員に会いに行く日は、何があろうと絶対に時間を守る。忙しい議員との面会は三十分程度が普通だから、一枚の紙に分かりやすく箇条書きにまとめた資料を持参、ポイントを絞って話す。議員としては、自分に何をしてほしいのか要領を得ない訪問者が一番困るそうだ。

議員が質問してくれる日には、必ず仲間と一緒に傍聴すること。背中に傍聴者の視線があれば、議員は張り切る。直後にお礼や感想の電話や葉書を忘れずに。選挙のときには事務所に激励文を送るなどして、つながりを大切に、問題に継続的に取り組んでもらう。

もし最初に会った議員自身が問題を扱ってくれなくても、他の議員への紹介を頼むこと。同僚議員からの紹介があれば、行った先で門前払いされずに話を聞いてもらえ、理解ある議員にたどりつくことができる、等々。

こうして、国会議員を使いこなせば、国会質問によって世論を広げ解決の道を開くことができるわけだ。

有権者は議員を利用すべし。この助言、実行してみる価値はたしかにある！

鈴木由美子

共産党

信念で結ばれた ピラミッド型集団

よその国のことは知らない。しかし私たちの国日本では、政治家とは「企業から金を受け取って、もっぱらその便宜をはかってやる人たち」と思われている。

苦難を乗り越えて

● 共産党の「清潔さ」には、思想的な筋金が入っている。太平洋戦争前、軍部によって投獄されていた共産党の人々が、アメリカのおかげでいっせいに解放されたのは昭和二十年十月十日。そのなかには現在、党の最高権力者である宮本顕治もいた。

戦前、戦中を通じて、戦争に反対した人々がないわけではない。しかしあらゆる迫害と投獄に耐えて信念を守りとおしたのは共産主義者、ただ共産主義者だけであった。戦後の知識人が彼らに頭が上がらなくなったのも無理はないような気さえる。出獄した共産主義者たちは、ソ連にたいする幻想をふりまいた。ソ連には人民を搾取す

ロッキード事件、リクルート事件、ゼネコン汚職などの相つぐ不祥事、それを規制すべき政治資金規正法のザル法化を見ると、そう思わずにいえることは難しい。しかしこの日本にも、断固、腐敗とは無縁に清潔さを守り抜いている政党が一つある。共産党である。

● 資本家はいない。人々はあの国ではみな平等に、健康に、生き生きと暮らしている。たまに「いや、あの国ではこんなひどいことが行われている」などと、現実に基づく情報を口にする人がいると、袋だたきにあってしまう。

共産党が意識的にウソをついたとは思わない。当時の日本のインテリはみな一様に、左翼幻想にとりつかれていたのである。人民を解放するために革命を起こした国で、人民がひどい目に合わされているはずがないじゃないか。多少のまがいことがあるにしても、それはやむを得ない回り道なのだからだれもがそう考えてしまうのだった。

戦後共産党の歩み

● しかし空が晴れ渡り、太陽

がさんさんとふりそそいだよ

うな戦後の一時期を過ぎると、共産党は苦難の時期を迎える。アメリカとソ連との対立は日に日に激しくなり、終戦当時は友好的だった占領軍と共産党との関係は急速に悪化していく。

昭和二十五年六月二十五日、朝鮮戦争が勃発する寸前、アメリカは共産党の中央委員全員を公職追放し、徳田球一と野坂参三は地下にもぐった。徳田の選んだ「暴力革命路線」は失敗し、共産党は一時壊滅状態に近くなる。

こうした外部的状況に加えて、共産党は絶えず、党内の対立抗争で揺すぶられた。

昭和二十五年の徳田球一らの「主流派」と宮本顕治の「国際派」の対立。昭和三十年代の春日庄次郎などの「構造改革派」の造反。昭和三十年代の終わりから四十年代の初めにかけては、志賀義雄らの「ソ連派」、次いで西沢隆二ら「中国派」との抗争。こうしたすべてに勝ち抜いたのは、現在の中央委員会議長の宮本顕治。

昭和四十五年、宮本は党規約を改正して宮本、野坂、不破の三人が要職を占める「トロイカ体制」をつくり、さらに五十七年、野坂が引退して名誉議長になった後、中央委員会議長となって宮本体制を

ゆるぎないものとした。

「除名」というもの

これらの対立抗争で特徴的なのは、負けた人間がつねに「除名」されてしまうことである。

例えば自民党では、党内の抗争に敗北しても、党員が「除名」されるということは何もない。

ところが共産党では、対立の結果、力の弱いほうが必ず追い出され「除名」ということになってしまふ。

その上追い出された人に対する弾効が猛烈だ。ささやかな支部党員の除名でも、除

唯物史観の魅力

ソ連の崩壊以来、マルクス主義の評判は地に落ちている。しかし共産党は一向にめげない。

「ソ連が崩壊したとき、わが党はもろ手をあげてこれを歓迎しました。このときの実感がどうかと申しますと、それまではだいたい、十日ごとになにかというソ連が悪いことをやったという記事がでるわけです。そうすると日本共産党の親せきか何かがあったかのように大衆が考えるものですから、日本共産党の立場を表明しなければならぬという苦労がしょっちゅうあつ

名の理由を書き連ねたチラシなどが道行く人にまでくばられる。

こうしたやり方に違和感を感じて、「だからいやーね、共産党は」という人は少なくない。

しかし「いやーね」と言うのは見当はずれ、ここにこそ苦難に耐え抜いて今日まで生き伸びた日本共産党の個性が、マルクス主義に則ってわが道を歩みつづける人々の面目があるのだと思う。

を信奉している。そしてこの「信仰」が崩れないかぎり、彼らの意気は衰えないだろう。

たたかいを内包する哲学

唯物史観はこの世界全体を、唯物論と弁証法で解釈する思想である。それは人間を、基本的に物質的な存在としてとらえ、社会をその基底で動かす力は生産力の変化であると考える。その社会のなかで人々は、支配する者とされる者、搾取する者とされる者の二種類に分けられる。搾取される者は労働者、搾取する者は資本家で、労働者は革命をおこして支配者の圧力をはねかえさねばならない。人間社会はこうして、絶え間ないたたか

これほど多くの人間の心をとらえ、行動の源となる唯物史観とは何なのだろうか。

日本共産党の綱領や規約に、繰り返し繰り返し「たたかい」という言葉が現れてくるのも、マルクス主義を知ってみるとうなずける。

たたかいの相手は無数にある。「日本独占資本」や「アメリカ帝国主義」はもちろんのこと、その他にも「左右の日和見主義」や、「覇権主義的偏向」や「事大主義的思想」も敵とされている。宮本体制が打ち負かし、除名した敵は、これらの「主義」や「偏向」だったに違いない。

こうして唯物史観は、その信奉者に強い倫理感とめざましい行動力を生む反面、敵対する者に対する情容赦ない弾圧を生み出しがちになる。

腐敗しない政党、企業の悪を指弾し告発してくれる政党は同時に、党内の異分子を除名し、政敵を粛清する「個性」を内包する政党でもあることを忘れてはならないだろう。

「民主集中制」という組織

さて日本共産党の組織は、その思想にふさわしくがっちり組織の原則は、「民主集中

級は上級にしたが」わなければならない。逸脱すれば制裁が待っている。

共産党の最高機関は、二、三年に一度おこなわれる党大会。ここで規約改正や、方針・政策の決定や、中央委員会の選出と、党にとって最高に大事なことを決めることになってはいるが、企業の株主総会と同じく、この「大会」はか

かして何といつても党を動かしているのは「中央委員会」。ここで理論を強化し、下級組織を指導し、財政を握り、幹部を育て、配置し、党の方針と政策などをきめる——つまり握っている。

中央委員会にはさらに上部組織があつて、それが「幹部会」。幹部会が中央委員会で選ばれ、その幹部会がさらに「常任幹部会」のメンバーを選ぶ、という三段構え。

宮本顕治は「中央委員会議長」、不破哲三は「幹部会委員長」。その他重要な部署である「書記局」の「書記局長」が志位和夫。三人とも東大出身の「秀才」である。

● 清潔さを支えるもの

こうした組織のなかで国会議員、地方議員のありかたもおのずから規定されていく。

国会議員は生え抜きの共産党員であり、党の中央委員会のメンバーから選ばれて国会に送り込まれる。他の政党の議員と違って議員個人の後援会の存在はなく、「党丸抱え」の感が深い。

議員にとって命から二番目に大切なのは選挙だが、共産党の場合、五十万人とも言われる地域に根をはった組織に支えられている。

活動資金も潤沢だ。企業から汚い金をもらわなくとも、党の収入の最大のもの「赤

● 議員はサラリーマン

共産党の国会議員と党との関係は独特だ。

まず驚くのは議員が国からの月給である「歳費」をすべて党に献上してしまうこと。その上で生活に応じた給料を党から受け取るというしくみ。

議員秘書も同じで、他の党では議員と秘書の関係はかなり個人的なものだが、ここでは本部議員だった党員が議員の秘書として回されてくる。

だから議員秘書と言ってもいわば党に雇われているサラリーマン、「先生」もまた同じ立

旗」の売上げ。毎年発表される政党の収入は、共産党がいつもトップだが、それはこの売上げ金額がそのまま入っているからで、純益はそんなに高くないのに、と共産党は嘆くけれど、ともかくこのペーパーの力はすごい。

党費は党員の収入の1%と決められている。しかし頭割にすると一人当たり月約二百円で、全体の収入に占める割合は10%にもみたくない。

しかしどちらにせよ、企業献金に無縁で運営されているこのかたちは、理想的な政党の姿だろう。

場だから、秘書と議員の関係はしごくドライである。

さて共産党の国会議員は全員で共産党としての「議員団」をつくり、意志統一を計っている。

日常的には議員たちは国会内部の各専門部に所属している、例えば衆議院の「労働委員会」に属している議員は、党の「労働部会」のメンバーとなり、そこで一つ一つの政策を討議する。

ただしここにも「民主集中制」の機能がはたらいていて、

「討議」の結論は共産党本部に送られて、そこでチェックを受けるしくみ。議員たちの意見が一人歩きしないようなシステムがしっかりと作られている。

国会議員にアンケートなどを送ると、共産党議員からの戻りが一番遅いのはこんなところ。理由があるのかも知れない。しかもその返事が多くの場合全員一致。

「毎月のお小遣いはいくら?」という下世話な質問に、共産党地方議員がみな口をそろえて「四万円」と答えている選挙公報を見てふきだしたこと

があるが、これも「民主集中

● 草の根組織の強さ

さて、中央以外の各地域には、これまたがっちりした組織ができています。都道府県にある都道府県委員会。その下

にある地区委員会。さらにその下に支部委員会。そして支部は、党員が三人いれば作る事ができる。共産党を草の根で支えている人々は実際には彼らなのだろう。

地域で党員と知り合うと、必ずと言ってよいほど「赤旗」購読をすすめられるのだが、こうして草の根の党員たちは、

制」の一つの結果なのだろう。党にたいする忠誠心を發揮している。

実際、共産党の活動は、地域に浸透している。地域で弱い者が困っているとき、住民相互に問題がおきたとき、まさきに話をきいてくれるのは共産党の地方議員だという声はたかい。

しかしこれほど「清潔」な、弱者の立場に立つ政党に、一定の支持者しか集まらないのはどうしてだろう。

私は思う。それはこの政党の持つ「個性」が、日本人の心性にそぐわないからだ、と。共産主義はキリスト教に似ている。この宗教も、そのすばらしい内容にもかかわらず、真の意味では日本には根づかなかった。共産主義と同じく、キリスト教も、思想的に「絶対主義」の立場に立つからである。

やおよろずの神々がいまだに心のなかに生きているおおかたの日本人は、「絶対主義」にはなじめないのだ。共産党の抱える真の問題はそこにある。



宮本顕治中央委員会議長（写真提供・毎日新聞社）

保育園はみんなのものだ

田中優子

「年収五百万円以上の家庭の子どもの公立保育園への入園は、園との『直接契約』にする」。厚生省の出してきた保育制度のこの見直しは、父母・保育園・自治体の力を合わせた反対運動の結果、今年の二月、見送りとなった。

た。

「政府は今までもいろいろな形で保育費用の負担を減らす努力をしてきました。ですから次は必ず措置制度崩しにくる、と見当をつけていたんです」

「公的保育・福祉を守る東京実行委員会」事務局の高瀬良子さんは言う。

「有識者」を選んで審議会を開き、その答申をかくれみのにして政策を強行するのは政府の常套手段。しかし高瀬さんたちは昨年一月、厚生省が保育問題検討会を設置する前すでに反対運動をスタートさせていた。「答申が出される前から運動をしたのは初めて」という対応のすばやさ、関係者の一致団結した反対運動が、厚生省の動きを封じ込め

た。

現在の「措置制度」は、手続きが面倒で利用しにくい。それに「措置」ではどうしても画一的な保育しかできない。

自由契約になれば、親はゼロ歳児保育や延長保育、休日保育など自分の都合にあった保育園が選べるようになる。保育園もいちいち自治体に伺いを立てることなくサービスを提供できるようになる。

従来どおり公費助成は行ない、保育利用料は一律にし、保育料の負担感・不公平感をなくしていく……。

「見直し」案。しかしよく考えると変なことはあり。「措置制度」では手続きが面倒で利用しにくく、画一的な保育しかできない、というのなら、なぜそれを改めないのか。それでは措置を利用する子どもたちにはたいする差別ではないか？

多様なサービスが受けられない、ときめつけているのもおかしい。第一、「自由契約」になったら、多様なニーズに応えます、などと園が約束しているわけではない。それどころか「園児獲得のために競争がおこり、経営が不安定になる」と反対している園も多い。

公費助成も要注意。「措置費」と違い、「助成金」では、国の財政状態によって、いつ、どんなふうになり打ちられるかわからない。

こうした反論に納得のいく答えが出るのだろうか。「はつきり言って、直接契約が導入された場合と、されなかった場合は、どちらの方が国の予算は減るんですか」

厚生省家庭局母子福祉課・課長補佐に質問をぶつけてみた。すると「直接契約を導入したほうが多少少なくなります」という答え。

しかしこの「多少」は、何と保育予算全体の二三%、約六百億円にも上る。

★ 親たちの払う保育料はどうなるのだろうか。

全国保育団体連絡会発行の「保育情報」は、「現在の政令都市平均保育料と比較すると、三歳未満児のほんの一部を除

き一〜二万円の値上げとなる。中には二〜三万円の値上げとなる階層もでてくる」と試算している。

保育の内容も金次第、親が園を選べるどころか、金払いのいい親が園に選ばれるという状況になりはすまいか。出生率が問題になっているのに、ますます子どもを産みにくくなるような状況が作り出されそうだ。

地方分権と規制緩和のかけ声のもと、国の負担を自治体と個人に押しつけようとする動きが、福祉のあらゆる分野で進んでいる。今年も諦めたものの、来年をめざして厚生省は着々と準備を進めているだろう。油断をしてはいけません。油断をしない、と思おう。

野田聖子さん

鈴木 由美子



自民党の女性議員といえ、テレビタレントやオリンピック選手というイメージがある。本来の職業分野でプロでも、政治家としての主体性はどうも、という印象。

ところが、衆議院政治改革調査特別委員会で「小選挙区制では女性が出にくくならないか」と鋭い発言をしたのは、自民党の野田聖子議員である。昨春秋のこの発言で、女性の政治進出と選挙制度との関連

を考える視点が広まったものだった。

野田さんは、若い。二十六歳で岐阜県議会議員となり、全国最年少議員として注目を浴びる。そして昨年三十三歳で衆議院に初当選。元建設大臣の野田卯一氏の孫であることが政治家を志すきっかけであったが、祖父が国会を去ってから長いブランクがあった。他の二世三世議員のように、固めてある票田をそっくり受

け継ぐわけにはいかない。しかも野田さん自身は東京で育ち、大学を出てから帝国ホテル勤務という経歴。本籍地の岐阜へ「落下傘で降りるように」乗りこんでの政治家修業である。

野田さんは、岐阜の有権者、特に女性たちと出会うために、岐阜で少人数の集いを数限りなく開いてきた。関心を持ってくれる人が自宅に仲の良い友人たちを呼んだところへ出かけていき、話をする。夜の料亭で男だけが政治を論じていた祖父の時代とは、全く違う行動スタイルである。

そして、環境問題を身近に感じてもらうために中古衣料のリサイクルを始めた。タンズや押入れに眠っていた服が、業者の手を経て発展途上国に送られるか、カーペットなどの材料になる。今は一年間に二〇トン以上も集める本格的な活動になった。野田さんの支持者層は、こういう地道な草の根活動で掘り起こされた人々である。

ところで衆議院の自民党議員団といえ、何と一九七九年以来十四年の長きにわたり女性議員ゼロ。九三年に田中真紀子さんと野田聖子さんの二人が当選、ようやく男性独占時代を脱けたところだ。自民党男性議員は、男ばか

りの社会に慣れ切っている。野田さんが国会での質問で語るまで、クオータ制という言葉を知らなかった人が多い。「この社会には女がいるんだ、自分と同じ地位にも女が入って来るんだ」ということを、ようやく知ってくれるようになった段階」だそう。

老人福祉についても、岐阜の女性たちからは切実な話を聞かされるのに、男性議員の反応はどこか鈍い。保守も革新も、男の政治家は、自分の老後は女性に面倒みてもらえろと信じて安心しているからだろう。

と言いつつ野田さんは、自分はフェミニストではないと言っている。性別分業撤廃とか言っている肩肘張っているのと同じ。選挙事務所でもご飯つくるのが得意な女性にはそこで活躍してもらえばいい。ただし、伝統的な役割とは違う生き方をしたい人が出てきたとき、排除したりしないように。政治は自然に楽しくやるものだからと思っている。

他党の女性議員と雇用機会均等法の話をしていると、違反企業に処罰をという強い意見がある。野田さんはその方法に疑問がある。たとえば障害者雇用促進法には罰則があるが、企業側には、罰金さえ払えば障害者を

雇わずにすむという雰囲気が出てしまったのではないかと。それよりむしろ、女性を多く採用し働きやすい制度を作った企業には、税制上の優遇をするなどを考えられないだろうか。ネガティブな告発より、プラスの思考で世の中を変えていくことをめざしたいと言っている。

典型的男社会であった衆議院自民党議員団の中に、お飾りでなく自分で語り行動する女性議員が出現して一年。

「世の中には女もいる」ことをやっとならび始めた男たちと、「小選挙区制だからといって女性の出馬を抑えてはいけない、全政党が、高い比率で女性候補を立てることに取り組んでほしい、女性を決して二次的な存在ではないのだから」と主張する野田さんとの間には、まだまだ大きな距離がある。それでも、大政党男性議員の群れに女性議員が混じりにぎやかに論陣を張ってれば、少なからぬ影響をもたらすことだろう。

野田聖子(衆議院議員 自由民主党)
一九六〇年生まれ。上智大学卒。帝国ホテル勤務を経て、八七年岐阜県議会議員に当選。九三年岐阜一区から衆議院議員に初当選。商工委員会、環境委員会に所属。

小野きみ子さん



父親の死とともに襲ってきた巨額の相続税。小野さんにとってそれが、区議会議員への道を歩むきっかけであった。新宿区下落合の広くもない借地に、明治時代からの古い家が建っている。独身の小野さんはそこで父親と暮らしていた。父親は、子供達に土地を残してやれなかったが、相続税がかかるよりいいだろうと言って世を去ったのだ。

ところが、借地権にも莫大な相続税がかかることが判明。借地人は、節税のために駐車場経営などの自由もなく、無防備のまま相続税に直面する。さいわい小野さんは四人きょうだいでから控除枠が大きかったが、それでも七〇〇万前後取られた。これが一人っ子だったら二二〇〇万以上かかるはずだ。サラリーマン家庭がどうしてこの税を払えるだろう。

親が死んだら子の生活が成

り立たなくなるこの現実。こんなのおかしい！と叫びたいが、何でもないときに一市民が駅前で演説するのはヘンなもの。選挙運動でならば、あちこちで言いたいことがいえる。だから八七年の区議選に出馬した、という。

議員になる素地は充分にあった。若い頃から十八年にわたる国会議員秘書生活。やめてフリーになってからは、下落合の森を守る運動や、食品安全条例の制定を求める直接請求。また住宅困民党なるグループで学者を交えて土地や住宅問題の研究を続けてきた。初めて出馬した区議選では「普通の人が安心して住める新宿区に」と訴えた。

いきなり定住化をかかげて立った人への他候補の目は冷たかった。区ではやれない、国の管轄である相続問題や土地住宅問題をスローガンにするのは僭越だ、大風呂敷の泡沫候補だと小野さんを叩いた。

選挙費用は乏しく、商店の物置の二階を事務所に借りて、シートで幕をつくる。結果は落選であったが、票は最下位当選者とわずかに三五票差で次々点。組織を持たず集めた一四〇〇余りの票は、小野さんの大きな自信になった。

こうして九一年の区議選では、ゆうゆうと当選。小野さ

んは、新宿区議会で、一人だけの会派「市民フォーラム」として活動しはじめる。だが、スローガンに掲げた住宅や福祉関連の委員会には、無所属新人は入れてもらえなかった。

小野さんが主張を訴える機会は、年四回の定例会で全会派が行う、代表質問。新宿区議会は代表質問については大変民主的で、一人会派でも毎回質問させてもらえる。質問には区長や教育長が答弁する。多人数の会派に属する議員はめったに代表質問の番が回ってこないから、毎回登壇する小野さんに「たまには遠慮しろ！」の野次を飛ばす。小野さんは野次されると逆にエネルギーが湧いてくるタイプ。他の無所属議員のように代表質問を自粛したりはしない。

区の家賃補助制度、土地の高度利用問題、在宅高齢者対策など小野さんの質問に、区の理事者がどう答弁したか、それらをすべて「区議会報告」誌上に書いていく。

小野さんの書くこの報告は、素晴らしく面白い。かつて一つだけ書いた小説はオール読物新人賞、やはり一作だけの児童文学は毎日児童小説賞を取っている。テレビドラマのシナリオも沢山書いてきた。この卓抜した文才と、ユーモラスな絵を描ける画才。地味

な手書きのパンフは、読み手を引きこんで離さない。

個人として長く社民連に属していたが、こんどは「さきがけ」に入る決心をしたことを最近ここで表明した。

区議会で不満なのは、大切なことが既成政党の代表者の集まりで決められ、一人会派などはカヤの外に置かれる慣行がある点。法律が定めた議事運営委員会があるのに、その前に各派幹事長会で議会の方向が決められてしまう。そこに出席するには、四人以上の会派に限られる。今無所属議員は三人。一緒に組んでも幹事長会には出られない。区議会に無所属が一人だった時期は、三人以上の会派ならOKとされていたのだ。目に見えない場所でハードルが上げられ、少数派議員が締め出されていく。

こういうからくりも含め、区議会のありのままの姿を区民に知らせていくのが、議員一期目の小野さんの当面の仕事である。

小野きみ子(東京都新宿区議会議員)一九三七年生まれ。長く新宿区下落合に暮らす。社会党と社民連の国会議員秘書などを経て、九一年から新宿区議会議員。文教委員会等に所属。

国会議員の金あつめ

②

住民サービス 即選挙運動

近藤 一年生議員はまだ力がありません。当選しただけで、国会のことは何もわからない。日常的活动として何をするかというと、主に三つある。まず部会に入る。そして、常任委員会、各種もろもろの勉強会。だいたいこの三つの活動に分けられる。

それと地方の市町村および県庁の予算獲得のための相談がある。橋をつくりたい、文化会館を建ててほしい、プールをつくってほしい、いろいろやりたいことが地方自治体にはあるわけ。それを応援してあげないかん。

今年の大雨で河川が崩れるかもわからんから改修工事をするとか、自分の選挙区のことをつぶさに勉強せないかん。住民は何を求めているのか、地方自治体の求めているものは何か、常に探って掌握しておかないといけない。

例えば自選挙区内に東京の八王子があったとする。市長は市内のどこそこへ橋をかけたい、と。そ

れを知った議員は、建設省へ問い合わせるわけ。市長は橋を頼んできていますか、ぜひ橋をかけてくれと言ってます、って。

議員は、今度の市長は橋にえらい力を入れてるな、ほな一回応援に行こか、と思えます。それで一度八王子へ乗り込めたら、「この橋は私が市長に相談されまして：：」。それは金のいらぬ選挙活動。

それをやっつけば票はバカッ。支持者に、自分の名前をとって「〇〇橋が出来たよ」と言わすんですよ。建設中に選挙があったりしたら、もう票はポコッと入る。こういうところへ食い込んでいかないと票は入らない。

でもそれは継続議員であることが絶対条件よ。一期だけで辞めるんだったら、そんなことしない。

また市町村の議員もね、陳情は書類だけでは印象が弱い。直接大臣へ頼みに行く。そしたら議員さんは「おい、村の人、町の人よ。私は行って来たぞ」と。それで橋が出来たり道路が出来たりしたら、



次の選挙でその議員さんも安泰よ。

勉強、勉強 また勉強

近藤 国会には議員連盟というものがあつて。いわゆる議連ね。これは巷のいろんな問題の研究会ですよ。自由民主党の先生方だったら八十や百は入つてゐる。

もう北方領土の議員連盟から外交問題、遺族問題、障害者問題、婦人問題とありとあらゆる会があつて。これらは陳情団体と一緒に入つてゐる。

一年生議員は議連に入つて必ず勉強せなかん。それをやりながら、市町村の相談にのる。そして後援会活動も忘れないようにする。自選挙区のことと国際的な日本の問題と一緒に勉強していかないとね。

新聞は三紙は目を通さにかいさん、最低。いろんなことを徹底的に勉強しとかなんたら、この代議士はチンプンカンプンで変なこと言いよる、ひとつも勉強ができとらん、民度が低いなんて言われ出して、次の選挙では落ちます。

——森下さんはそれをやつてらっしゃいましたか？

近藤 そりゃそうよ。やらなかつたら八回も九回も当選しません。

金、あんまり使わないようにし

てきましたからね、金のいる選挙活動はすーっと避けてきましたから。ものすごく節約して選挙しましたよ。その代わりテクニクは持つてる。票が足らんから助けてください、という部門を持つてる。

精神団体が 票になる

——それはどういう部門なんですか？

近藤 精神団体。

——宗教団体のことですか？

近藤 いや宗教とは違ふ。例えば最高道徳の研究会「モラロジー」。これはすごいよ。あそこは高校、大学まで持つてる。全国でモラロジアンが二十万人近くいる。学校の校長先生あがりとかが、世の中で聖人君子に近づこうと一生懸命な人ばかり集まつてる。東京だったら、おそらく二万人か三万人おるんじゃないですか。全国一の優良団体です。

あるいは神社庁。神主さんの世界ね。明治神宮にあります。ここには氏子がいる。総代と氏子さんです。

これは秘密のテクニクだから、紙面に書いたら（議員が）集中して一緒クタになってしまふ恐れがあるけど、大事な人にだけはそつと教えてあげる。

助けてくれ言うて、「ヨシ、助

けてやろうじゃないか」という環境を持つたら選挙は強い。そのかわり山へも一緒に登るんですよ、白装束で。御嶽山、大峰山へ白袴はいて。今までに五回くらい行った。毎年行きたいですね。そういう精神団体をいくつか持つておく。

——だけどこれは、代議士さんも秘書さんも「鉄の健康」じゃないと駄目ですね。

近藤 そうよ。一年のうち、一日も風邪ひかない。私なんか去年までめてちよつと病氣したけどね。

これは私共が創作した、選挙に強い本当のテクニクよ。これ以上は真似されるから言わない。

資金あつめの あの手の手

近藤 次、冠婚葬祭、慶事。

有力な支持者の場合は家の新築、孫の誕生まで情報が入ってくるようにしといたほうがいいね。少ない金でも、酒の一本でもいいから心を届ける。本人が行くべきか秘書が行くべきか、奥さんが行くべきか、決める。やっぱり強弱の力関係がありますから。

——だと冠婚葬祭に議員がお金を出しちゃいけないという法律が出来ましたでしょ。

近藤 本人が行くときはかまわんことになつて。花輪は駄目よ。売名行為になるから。

こういうことを日常活動として、一年生議員は常に心がけてやらにや

いかん。

そして、政治資金集め。これを集めないと活動は出来ません。そのために少しでもお金になる後援会をつくる。あちこちへ入会をお願いに行く。秘書が先に出かけて、本人が後から出向く。

共産党関係はあきませんよ。創価学会もアカンかもわからんけど、社会党関係だったら今なら、まあ、月一万の会費で二割は入つてくれますよ。

——入つてくれるって、どういふ人たちですか？

近藤 個人でも企業主でも。

——個人じゃ入らないでしょう、月一万じゃ。

近藤 五千円でもいいです。アメリカは三千円、五千円の会費が多いらしいね。

最初二千円にしてもいいですよ。それがズンズン増えていく。というの、その人が事業の相談やらいろんなことで相談に来て、道がつくから。

——なるほど。

近藤 相談で一度足を運んだら、もう関係は深いですよ。そんなことをしているうちに、会費は一万円になる。

——それ以外に、資金集めの方法は？

近藤 パーティーがあります。

パーティーのやり方は、まず世話人の名前を列挙する。例えば自民党だったら、中曾根先生だった竹下だったり政務調査会長やっ

た人とか大臣経験者とか、スポーツ選手とか、バラエティに富んだ世話人をこしらえる。

党からそういう人を斡旋してもらおうわけ。二十人なら二十人の世話人を印刷してパーティー券をつくる。その券を、日頃後援会活動をしていてくれる人のところへ持って行って、「一枚お願いします」と言うたら、必ずこうしてくれる。年に一回だから。

一年生議員だったら一枚一万五千円ぐらいだわな。実際には五千円しか料理に使わない。会場も安くしてくれる所を物色して、仕上がりは五千円〜六千円におさめる。

これは純粋な事業ですからね。これをしないと選挙は出来ません。それ以上の金が欲しいんだったら悪いことせなあかん。

一年生議員で、先輩格の代議士や有名人の名前を借りて、一回のパーティーでだいたい三千万から五千万ぐらい集める。

——これは法律で禁止されていないんですか？

近藤 いません。事業報告はせにゃいかんよ。

——これは別に悪いことじゃないんですか？

近藤 うん。ただ、ゼネコンへ行つて百枚も売ったりすると、裏があるとされるんですよ。三枚や五枚だったなら誰からも何も言われな

い。このパーティーが成功するかどうかで、活気が違ってくる。活動

派閥資金



資金が出来るんだから、もうちょっとポスターを上手につくろう、印刷枚数も増えて、集会の回数も多くなる。代議士の活動は活性化化する。そのために先輩代議士のご威光を精一杯利用するわけです。

党と議員

近藤 党の力を、一年生議員は特に頼まにゃいかんね。あるいは二年生、三年生までは。党の長老に

お世話にならないと自分が登っていけない。

自分の講演会のときに、話題の豊富な講師を斡旋してもらおう。自分だけが喋るといのは、ちょっと味気ない。やっぱり傍からいいところを言うてもらわんと。自分で自分を褒めるわけにいかんでしょ。馬鹿かと言われる。偉い人が褒めてくれたら三倍の値打ちがある。

——そりゃそうだ。
近藤 持ちつ持たれつ。自分が偉

くなったら褒めてあげたらいい。
二番目に、選挙のときに応援弁士を党から派遣してもらおう。党には代議士および専属の講師がおりますから。

また、党の機関紙がある。その中に自分だけのページがある。単独で印刷するより三分の一ぐらいは安い。つまりね、一ページ分だけ空白になってる。そこをPRのために使うわけ。

党の書記長、総裁の文章の次に自分が出てくるんだから。言いたいこと、書きたいこと、写真も入れてもらおう。それと、政策。

党に、自分の政策を取り上げてくれんかと掛け合う。というのは、党の政策委員会でも気がつかないところがある。東京においたらわからんもの、山間僻地のことは。僻地には過疎の問題とか、離島の問題とか、いろいろ頼みたいことがある。そういうことを党の政策として取り入れてもらおうわけ。

宝の山は企業なり

近藤 先程のパーティー応援、券を売るテクニクも先輩から教えてもらおう。

例えば自分の選挙区じゃなくても、素晴らしい会社がいくらでもありますよ。東京なんか、なんぼでもある。宝の山よ。

私が代議士だったら名刺を持って、まず総務部長のところへ挨拶に行く。上場会社でなくてもオー

ナー会社がいっぱいある。上場会社は断り方がうまい。「実は私共予算がございまして、そこまで手が回りませんので」、他に馴染みの代議士がおるから「ちよつと考えさせてくれませんか」と言ったら、これは断ることです。

でもね、本当に売り込む気なら企業はどないでもなります。頭を下げる誠意を持って当たれば通じぬはずがない。必ず通じます。

——というより、その会社がたまたま何かやるときに、行政にへんな規定があったりしてやりにくいと。その時に「どうですか?」って言われたら、やっぱり、こちらでちよつと応じようかと思うわねえ。

近藤 必ず、必ず。われわれはお守り札。氏神さん以上のね。お守り札を買うつもりでパーティー券をこうでもろたり、後援会へ入っでもろたりする。

そういうつながりが出来ていると、どれだけスピーディーに事が運ぶか。あそこの首長はわしの後輩だよとか、知人だとか、なんぼでもありますから。

お守り札としてお願いしたいと言ったら、非常に確率は高い。もし私が指南役だったら、代議士にそれやらせます。金がないんだったら、それやれって。

立場が逆になってごらん下さい。社員が百人の会社があったとして、まあ、なんとか経営ができてい

と。うちの取締役も真面目に営業をやってくれている。社長がちよつと一服、タバコを吸いよるときに総務部長が、「実は代議士さんにご挨拶に来られました」「ほな、十分でも話をしよか」と。そこで月五千元で後援会に入ってもらおう。これはもう宝の山ですよ。

——会社だったらそれぐらいのお金は出しますわね。

近藤 公明党は難しいけど、社会党、民社党、新生党、自民党まで、私のやり方は全部該当します。

派閥は互助会

近藤 次は派閥の資金。

社会党でも自民党でも派閥で金を集める。派閥というのは長い歴史がある。

——派閥って、いったい何なんですか。われわれ、全然わかんない。

近藤 単なるグループ。ただし政治資金を集める上で、みな届出をしている。例えば「暁政治研究会」と名前をつけて、東京都へ書類を持っていったら、もう明日からお金を集めていいんです。

——ふうん。派閥に入るの思想が同じだからでしょうね。

近藤 少々違つともかまわない。まるつきり違つのは駄目です。中曾根派なんかね、異端者がたくさんおりましたですよ。ま、はやくいえば、派閥ちゅうのは互

助会です。

——でも、どうやって人を集めるんですか。

近藤 そんなもん、すぐですよ。「酒、飲まんか」からはじめたらいいんですよ。選挙のときに助けてもらえそうな人を物色するわけ。

例えばここに、五人の派閥があるとして、選挙で当選できそうなのを探そうじゃないか、と。

——タマを探すわけね、派閥が。

近藤 ああ。タマを探して、これはエエぞというのが見つかったら一回会おうやと。今度上京した時に会いに来てください、と。面白

そうだなと思うたら、向こうは来ますよ。あるいはこちから会いに行く。実はこんな計画があるんやと、今度の選挙に出たいんやとなつたら、それじゃ、うちのほうで世話してもらいましょか、となる。

——なるほど。でもその人が図々しかったら、二つの派閥に……。

近藤 二股どころか、三つの場合もある。それでウマの合いそうなところへいくわけ。

派閥側からすればアテが外れる場合もあるけど、一度金を受け取たらね……。選挙用の金が派閥には貯金してある。私も運びましたよ、お使いで。一千万入ったヤツを選挙の前に持って行く。第三者を横に置いて、この手で渡してきましたよ。

第三者を立てとかな、渡した言

うても、受け取つたらん言われた

ら、判定つかないでしょ。公に出

来ないから、こんな金は。疑惑を

持たれたらまずいしね。

近藤 最後に、党の中で出世する

方法。

組閣のときには党へ大臣、政務

次官の割り当てがくる。役職につくことは出世でしょ。そのためには、まず勉強をする。常に怠らない。治に居て乱を忘れず——これほど大事なことはない。

出世する方法

専門は必ず二〜三持つ。あの問題なら彼へ回せ、と派閥からも党からも言われるくらい、深い知識を持つ。それが、星が光っている”こと。

専門を持つほど強いものはない。常任委員会でも十八あるんですよ。建設があり、郵政がある。

郵政なら、郵便事情からコンピューター、人工衛星にいたるまで知ってる代議士がいますか? そんな

ん、知らんですよ。このごろの代議士は難しい事なんて知りません。

それと、弁舌さわやか。知つても喋れなかつたら駄目。立て板に水。とうとうと喋る。能弁はと

きには人を引きつける。大学教授みたいな抑揚のないのは駄目。あ

るいは、喋りながら動作をする。

——やっぱり政治家は話術が上手ですよ。

近藤 そりゃ勉強してるもの。

もう一つは、マスコミ対策。こ

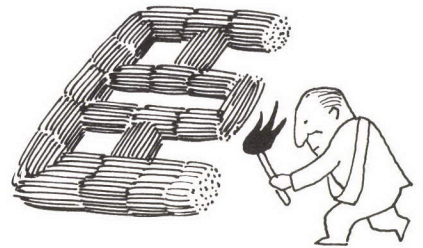
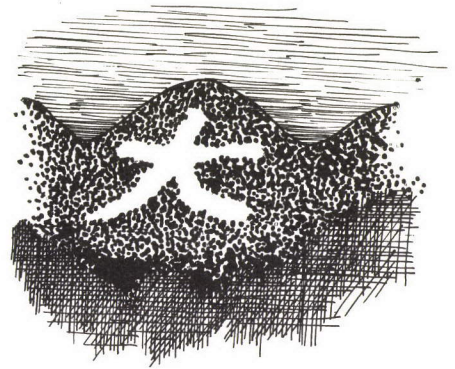
うも、受け取つたらん言われた

ら、判定つかないでしょ。公に出

来ないから、こんな金は。疑惑を

持たれたらまずいしね。

近藤 最後に、党の中で出世する



れが出来ない人は駄目。

——あの小沢さんなんか、どうですか。

近藤 小沢さんは強弱でいきよる。相手の出方を讀んでる。立派です。

マスコミ対策もはじめは名刺交換からいくんですよ。で、次にレター作戦をやって、「ちょっと教えてくれ」言うて記者を呼び出す。「聞きたい」なんて言うたらアカン。「ちょっと教えてください」が秘訣。これほど人の心を引きつけるものはない。威張ってたら駄目よ。

これは大事よ。役人にそれやっごらんない。何でも手伝ってくれるから。

研究会での

つながり

近藤 もう一つ、研究会をつくる。ここ三〇四年の時の話題、例えば

病気だったらエイズとかガンとかね、何でもいい。環境問題とかモングル研究会とか、研究団体をつくる。生まれ年で会をつくってもいいですよ。

例えば大年生まれの「ワンワン会」。普通だったら自民党議員と共産党議員と、一緒に酒を飲むことはまずありません。そやけど「ワンワン会」やったら生まれ年の人は皆寄ってくる。

そして自分は頭に出ない。会長代理もしくは事務局長におさまる。頭には有名な代議士をすえる。規模の小さいときは三年生議員か四年生議員をもってくる。あるいは政務次官になりたい人をもってくる。

だけと言いだしっぺは自分だから、新聞記事でも何でも結局は自分が表に出る。そういうことをしているうちに段々地位が上がって

いく。

一番大事なのは、継統当選議員であること。ビリでも何でもいいから必ず上がってくると。どんなことがあっても、石にかじりついてでも当選してくる。これが出世する一番の条件。そして常々、真面目に政治活動をしようたら必ず出世する。

金は集めるもの

——でも、その真面目な政治活動というのが、今までの話だと人脈づくりに追われているでしょ。本命の政治活動というのは……。

近藤 研究会です。最初に言いました立法院の仕事は、議員立法ちゅうのは少ないんですよ。ほとんど官僚がもってくる。立法までにデイスカッションがいっぱいされてる。出てきた法律案を、委員会を通過させるために、議員は勉強したらいいわけ。

それと、健康。タバコもほどほどにして、午前様は絶対にイカン。それでは健康は保てません。夜十二時までには家へ帰ってないと。それを心掛けられない人は、議員になっても早死するね。

——今までの話はいろんな意味でノーマルな世界ですよ。うんと金持ちだから出世できる、ってわけでもないですね。

近藤 ないですよ。金持ちだけの人は続きません。どなたでも。また、温泉から湯が湧くように金の

ある人なんて、いません。金は集めない。

田中角栄はセネコンから金を集めるのが上手であった。金丸は蓄財が過ぎて一生殺してしもた。だから、ああいうことをしたら駄目なんです。必ず天誅が下る。

天プラのカスが

金になる

——でも、この前お目にかかったときに、最近は何からない代議士が増えてきた、っておっしゃったけど、地道に仕事をしてたら五六年でベンツに乗るとか御殿が建つとか、ないでしょ。

近藤 政治家がなぜ蓄財するか。純粋に政治活動資金だけでやったらね、子供を大学へもやれない。だから蓄財に走るんですよ。そのオコボレがベンツになったり御殿になったり、度が過ぎて金塊になったりするわけ。

オコボレは必ずあるの。天プラに例えたら、天カスはつきものでしょ。あの浮いてるカスだけでも大きなもんですよ。天プラは政治資金。天カスはウドンにかけても美味しいもんね。それが多いか少ないかだけで。しまいいには天プラまで自分のものにしちゃう。それがよくない。天カスの少しは必要悪です。

まとめ・宮前 和

反対！「臓器狩り」をめざす移植法

人間の尊厳にとってゆるがせにできない問題が、政治の場でないがしろに扱われ、その結果人の心を荒廃させていく—そうしたおそろしい効果を持つ法案が、国会を通過うとしている。「臓器の移植に関する法律案」だ。

平成四年一月、「脳死」を人の死とみとめる方向で多数意見をまとめた「脳死臨調」でさえ、これほど露骨な「臓器狩り」法案を作ろうとは思っていないかったらう。

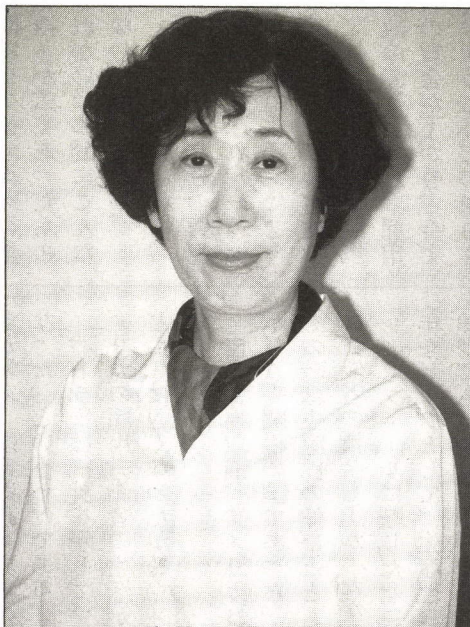
この法案はまず、「脳死」状態の人間の体をはっきり「死体」ときめつける。

「死体」とは「脳幹を含む全脳の機能が不可逆的に停止するに至ったと判定された」人間の体だという。

脳が死ねば人間は早晚必ず死ぬ、だからその人はすでに「死体」とみなしてよい、というわけである。

そうだろうか。

私の父は肺炎で死んだ。血液中の酸素がもう、通常の三〇%しかなくなっている。絶対助からないと医者が言った。「脳死体」を死体というのなら、「肺の機能が不可逆



「脳死」のからだは「死体」ではなく、脳だけが死んでいる生きた肉体なのだ

的に停止するに至った」父の体もまた、法的に「死体」と呼ばれてもおかしくないことになる。こんなことがあってよいものか。

脳死の体を「死体」とする考えは、逆立ちしている。脳死状態の体は「死体」ではない。それは「脳しか死んでいない」生きた体なのである。

とくとくと心臓が動き、温かい血の通うその生きた体から、心臓をとる、肝臓をとる、腎臓をとる。生きた肉体を、臓器という部品の提供物質にすることを法的に完全に正当化する、それがこの法律のめざすところである。

もっとおそろしいことをこの法律は言っている。臓器を取り出すのに、本人の意志には関わりなく、遺族の承諾があればよい、というのだ。

あまり知られていないことだけれど、移植に必要とされている人間の肉体は、もっぱら若い人の体である。老いて大往生を遂げたひとの肉体などはお呼びでないのだ。

若者はめったに死なない。だから「脳死」と判定される人の大半は事故死である。

「救急車のサイレンの音が聞こえる度に、もしや、と期待する気持ちになって…」

移植を待つ息子を持つ母親が述べた言葉が忘れられない。

他人の死を待つ気持ちを人の心に植えつける医療。それは正しい医療といえるのだろうか。

私たちは臓器移植でなく、人工臓器の開発にこそ情熱を注ぐべきなのだ。しかし移植に血道をあげている限り、人工臓器の開発の歩みは遅々たるものだろう。

「国会で脳死を認めないと、金持ち日本人が外国へ行って、臓器を買いあさりますからね」という論をふりかざす人がいる。しかし臓器移植にたいする日本人の抵抗感、自然の摂理に従って謙虚に死を受け入れる日本人の、つつしみと畏れに満ちた心の表れなのだ。外国で行なっていることを、日本が追従する必要はどこにもない。

それにしてもほとんどの国では、臓器移植はドナーのはっきりした意志に基づいて行なわれている。

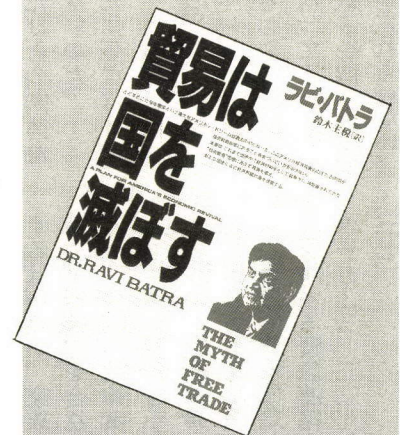
脳死を「死」として法制化するばかりか、家族の承諾のみで臓器摘出を合法化しようという今回の法律案は、もっとも手軽に臓器を手に入れようとする、「臓器狩り」の意志に睨らされている。

（臓器移植の性急な立法化に反対する緊急連絡会）向井承子方〇三―三三九七―三五三七）

読む BOOK !?

ラビ・バトラ著
貿易は
国を滅ぼす

和田 好子



著者はインドの人で、一九四三年生れというから五十一歳。母国の大学で経済学を学んだ後渡米し、博士号を取り現在ダラスのサザン・メソジスト大学教授である。

経済学者の書いた経済の論文であるから、素人としては読み違えるおそれがある。しかし決して学界向けに書かれたものではなく、一般に彼の理論をアピールするのが目的の著書と思われるので、素人なりの解説をしてみたい。

●アメリカ経済の凋落

アメリカの社会がおかしくなったという話は、今では誰でも知っている。失業者が多い。ホームレスが増えている。麻薬がはびこっている。暴力が横行し殺人事件がひんぱんに起こる。怖い国だという印象が日本では定着してしまっている。

昔からギャングがいたりして、気の荒いところはあった

けれど、一面キリスト教に基づく正義心が強く、善意の人が多くと伝えられていて、日本人の間にはアメリカへの憧れの気持ちが広くあったものだ。それがいつの間にかこんなことになったのだろうか。

ラビ・バトラ氏によれば、一九七三年、アメリカの貿易が完全に自由化され、レッセフェール（自由放任）になって以来、アメリカの製造業がだめになり、貿易赤字、失業国家財政の赤字が増え、雇用労働者の賃金が下がり、今では周知のようなひどいありさまになった、という。

自由貿易はアメリカ企業を国際競争にさらした。そこにはドイツや日本のような強敵がいて、彼らは決して貿易をレッセフェールにはせず、ことに日本はさまざまのかくれ障壁を用意することによって無防備なアメリカを食い荒らした。

またアメリカの製造業は、安い賃金を求めて出て行き、税金も免れたため本国では失業が増え、国家財政も赤字になった、というわけである。

バトラ氏は統計を示してアメリカの雇用労働者の生活がどんなに悪くなったかを立証する。

自由貿易以前、アメリカはかなり高関税の国であった。その時は生産性の伸びとともに労働者の賃金も上がったが、レッセフェールに転じた七三年をピークとして、生産性は伸びても賃金は下がっていった。

バトラ氏はこのように自由貿易体制を元凶として告発する。彼は競争が国内の企業間で行なわれていけば有益であるが、国際間はだめだ。それは敗けた国全体の凋落を招くというのである。

●保護主義という処方箋

彼はアメリカ快復のために、

五カ年計画を提唱している。保護貿易を復活し、関税を高くして国内企業を守る。そして独占を許さず巨大企業を分割して競争をさかんにする。この方針でやればアメリカは再生する。と彼は提案する。

●元凶は貿易か

バトラ氏も認めているのだが、自由貿易はアメリカ以外の多くの国の経済を向上させ、国民生活も向上させた。アメリカへ最近行った人が、パングラディッシュ製の衣類が溢れていたと言っていた。世界最貧国ではかなりの労働者が職にありついていたことだろう。いわば自由貿易は、アメリカ人の世界一高い生活水準は守らなかつたろうが、貧しい国の生活を向上させた面もあるのである。

しかし経済は、そんな善意で動いてはいない。バトラ氏は自由貿易体制を政策の失敗とし、転換すればよくなる

しているが、一国の政策が思い違いで決定され、二十年以上も継続されることはまずあるまい。

おそらくアメリカの資本主義は、近代国家の枠組を乗り越えてしまったので、国内のことなどかまわず、利益を求めて世界中にはびこり増殖しつつあるのだろう。バトラ氏も言うように、アメリカのGNPは上がり続けている。それが国民大多数のふところに返らず、少数の大金持ちを作りつつ利益を求めて世界中をさまよっているのだ。

資本主義の発達の極限のシステムが、貿易自由化を必要としているのである。

バトラ氏の提案は大変実行が難しいと思われる。日本もヨーロッパも、巻きこまれていくのは必然、続々と後を追う先進諸国、さらに続く発展途上国。世紀末の先行きは暗い。

千葉政経塾

「金権千葉」の汚名は、返上したい。それには、この千葉という自分たちの地域から政治や社会を変えていかななくては。

わかっていても、では何をすればいいの。「千葉都民」といわれるサラリーマンたちは、「通勤地獄」「住宅ローン」など疲労の素を抱えながらの日常生活。自分自身のライフスタイルを変えて一歩踏み出す、なんてあるはずがない、と思われていた。女性たちもそうだ。男社会にうんざりし

ながらもパートは百万円以内
に収めて、自分磨きに向かう
という具合。

ところが、いた。「地域の
視点」から「政治」「福祉」
「教育」「環境」などを考え、
行動していこうと二十三人が、
一見古くさそうな、実は新鮮
な「志」をひっさげて集まっ
た。

昨年十月、千葉県船橋市に
「千葉政経塾」が誕生した。
成田街道沿いの元お米屋さん
の一部分を借りている。研修
室は二階の十畳ほどの部屋。
定例の研修は毎週、木曜の夜
二時間。講師は各界の専門家、
大学教授、弁護士、議員など。
限られた空間はまさに寺子屋。

一期生二十三人は、公務員、
歯科医、教員、商店主、看護
婦、町議員、運転手…と職業
は多岐にわたる。「いろんな
世界の人と一緒に学ぶことが、
いい」と言う。

実は、(財)松下政経塾(本
部 茅ヶ崎)が、九二年四月
から「地域から日本を変える」
運動(略称「ちにか」運動)
を推進している。それに賛同
したサラリーマン(四十六歳)

と、自営業者(四十二歳)が
中心になって、県内の松下政
経塾出身の野田佳彦(二期生)・
長浜博行(二期生) 衆議院議
員谷田川元(七期生) 県議員
とともに、松下政経塾初の自

公開セミナーを開催している。
初回は習志野市で、円より子
氏の「女性からみた政治」、
百人を超す参加で盛況だった。
四月には、印旛郡白井町で
「白井フォーラム・一日政経
塾」を開催した。竹内陽子塾
生と野田佳彦・衆議院議員が、
身近な政治といまの国会状況
をそれぞれリアルに報告。合
間には、アルペン音楽の生演
奏もあって、会場は和やかな
ムード。政治をより身近なも
のとして語り合うことができ



塾生の
竹内陽子さんは
町会議員

菅運営の地域政経塾を設立さ
せるに至ったのだ。これが新
聞報道されると問い合わせが
続いた。多くの女性たちから
の、「地域から」「女性が」が
キーワードなのだというメッ
セージだった。

千葉政経塾では、塾生の定
例の研修のほか、年に六回、
県内各地で、地域に開かれた

た。

今後は、公開講座「余暇時
代の遊びのデザイン」(船橋)
「二日政経塾・地方分権を考
える」(市原) 公開セミナー
「アジアと日本の国際交流」
(船橋)などが予定されてい
る。

今年の塾生の応募は九月に
行なわれる。審査は履歴書、

音楽の合の手も



小論文、面接。定員は二十人。
研修費用は月二万円。問い合
わせは〇四七四一九三二五〇
七三まで。



女性ならではの質問がとび出す

読者のみなさまへ

お知らせとおねがい

▼政界「液状化」の言葉で表される混沌状態。いまや「細川、WHO?」という感じになってきました。三か月に一度の発行の本誌では、日刊紙や週刊誌のように、一つ一つの動きに密着した取材はできませんが、政治の本質的な動きとその意味はがさず追っていきたくと思っています。

▼この冊子は年間予約購読、郵送で販売しております。購読ご希望の方は、奥付にある編集部へ電話でお申し込みください。一冊ご希望の方は年間四冊分で二二〇〇円、送料四冊分三六〇円、合計一五六〇円です。発行日は三、六、九、十二月のそれぞれ二十四日です。

▼複数冊を取っていただける方には、冊数によって割引があります。詳細は編集部へ電話でお問い合わせください。

▼ご意見、ご提案など、読者からのおたよりをお待ちしております。

編集部

女の政治口口誌

—— 四月から六月まで ——

ずれにされたということ、政権離脱するなどということ、は短絡的に過ぎる。「離脱」

▼社会党抜きで他の政権党が会派をつくったというので怒り心頭に発し、あっといっ間に政権を離脱した社会党。

マスコミはこの行動にたいし、意外に同情的な姿勢を見せた。不思議である。

政権内部にとどまること、どんなにわずかでも自分たちの主張を現実化することになる、というそれまでの社会党の主張が真実ならば、仲間は

政策と、心にもなく成立させ

この問題で不思議なのは、北朝鮮がいったいどんなつもりでこうした刺激的な行動を取るか、どうもいま一つわけが分からないということだ。

どんな国でも、無意味に他の国を刺激し、怒らせるような行動を取るはずはない。その真の原因がどうしてもはっきり飲みこめないのはどこに原因があるのだろうか。メディアが無能なのか、それとも背後に何らかの力が働いているのか。後者であるとすれば、

おそろしいことではないか。

▼平日の昼間、NHKラジオは国会での委員会の討議を中継している。これがドラマそのけのおもしろさ。

やくざもどきの口調で政府を追い詰める議員、原稿を棒読みにするだけの議員、物分りのいいご隠居さんの口調の議員と、本性をさらけ出してしまつのがおもしろい。

これにしても野党は下品かつ居丈高、答弁する政府与党は極端な低姿勢あるいはいんぎん無礼というこの構図、なんとかならないものだろうか。

▼マスコミに出現する税金論議は、消費税の税率アップと「節約」中心の行革にばかり焦点がおかれ、税を含めて政府が使うすべての支出のおおもとを洗い直す議論がほとんど行われていない。

際限のない公共投資、浪費としかいいようのない防衛費、その一方で保育や老人関係の予算の容赦のない削減。

大蔵省提出の予算案が、国会の審議によって大幅に修正されたということは、過去にほとんど例がないという。

この背後には、政治家が国民の生活の「質」にほんとうに目をむけていない現実がある。情けない。

(K)